



ご飯一膳で決まる 夫婦の関係

花まる学習会代表

高濱 正伸

Takahama Masanobu



お父さん方、このような経験はないでしょうか。

仕事を終えて「たたいま」と家に帰ると、家族はすでに食事を済ませていて、自分の分のおかずだけが食卓に…。

お父さん方の中にはこの光景を見て、「少しずつ何か自分の大切なものが削られていく」と寂しさのようなものを感じる人もいます。

そういう感覚が蓄積されていくと、やがてそこから大きなすれ違いが生まれます。

そしてそのまま1年も経つと、お母さんが「家族旅行しよう」と言っても、お父さんは、「俺も行かないといけないの?」という反応になってしまったりするのです。

前回、「お父さんはお母さんの笑顔のために」とお話ししました。では、逆にお母さん方はどんなことに気をつけたら良いので

でしょうか。

そのポイントは「男性のプライドを大切にすること」です。

私たちが開催するキャンブイベントに、「高濱さんがやるなら応援するよ」と言って、自分の子どもが参加しないにもかかわらず手伝ってくれるお父さんがいました。

私から見ると夫婦仲はとても良く、子育てもがんばる「スーパーパーバ」でした。

私が「本当に理想の夫婦ですね」と話すと、彼は「実はこの間までは離婚寸前だったんですよ」と言うのです。

私が驚いていると、こんな話をしてくれました。

夫婦関係がうまくいくようになったのには、きっかけがありました。

それは、最近家で食べるご飯の量が以前よりも多くよそわられていることに彼が気づいたことでした。

息子さんとお風呂に入った時に何気なくそのことを話すと、息子さんがこう言ったそうです。

「ママはね、いつも僕に言っているよ。『私が選んだパパなんだから、家族で一番しゃなきや。パパは偉いのよ。ご飯もパパが一番多く食べてもらう』って」

彼は、息子さんの話を聞いてと

ても驚きました。奥さんがそんなことを言っているなんてまったく知らなかったからです。

それから彼は「この家族のためだったら死んでもいい」と本気で思うようになったそうです。

お母さん方は「たったそれだけのことで」と意外に思われるかもしれませんが、でも男性というのは、「家族から尊重されたい」と思っているのです。それが男性としてのプライドなのです。

この家族の場合、家族みんながお父さんのご飯を大切にしてあげることでお父さんを尊重している」ということが伝わったわけです。

子どもたちの成長にとって夫婦関係はとても大切ですが、異性同士というのはお互いに知らないことだらけで、いろいろなすれ違いが生まれます。お互いの気持ちを完全に理解するのは難しいです。

だからこそ、日々お互いに相手が好きことや嫌がることをいつも考え、より良い関係を築くよう努力することが大切です。

(花まる学習会神奈川事務局が横浜市で主催した講演会より/取材・山本関東特派員、編集・岩屋佳朗(終わり))